

緑陰通信

News from the shade of trees

目次

- 名誉館長就任10周年記念講演会 P1
- 特集「中村地平」 P2
- 秋の読書週間企画展示/第2回緑陰コンサート.. P3
- ウィキペディアタウンin 椎葉村/特別展『宮崎の鉄道』.. P4
- 覗いてみよう！ 県立図書館 P5
- 県立図書館からのお知らせ P6

※緑陰通信は県立図書館のホームページ (<https://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>) からご覧いただけます。



宮崎県立図書館 名誉館長就任10周年 記念講演会 を開催しました

当館の名誉館長は、宮崎県出身の著名な歌人であり若山牧水研究の第一人者としても広く知られている伊藤一彦氏です。平成25年4月の就任から今年度で11年目を迎えています。

温厚な人柄で親しまれ、令和4年秋の叙勲では旭日小綬章（芸術文化功労）の受章者となるなど、多方面で活躍されている伊藤名誉館長ですが、そのような多忙な中でも、県立図書館を長きにわたってあたたかく支えてくださるとともに、文芸活動の振興や読書の普及に日々尽力されています。

そこで、伊藤名誉館長のこれまでの功績に敬意を表し、就任10周年を祝して、令和5年10月7日（土）に記念講演会を開催しました。

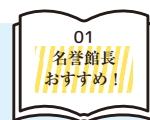
演題は「読書と人生 — 私の体験から」です。熱心な読書家でもあり、1階閲覧室の「名誉館長おすすめの本」の紹介なども手掛ける伊藤名誉館長にふさわしいテーマで、当日は用意していた席がほぼ埋まるほどの多数の参加があり、いきいきと語る伊藤名誉館長に熱い視線が注がれました。

内容は、自身の成長や人生経験になぞらえて、本格的に読書を始めた高校時代、哲学科で学ぶ一方で詩歌に親しむようになった大学時代、さらに卒業後から現在に至るまでと大きく3つに分け、それぞれの時期での愛読書を挙げながら、その本との出会いや受けた影響、得られた喜び、自身の考察、著者との接点など貴重なエピソードの数々を、ユーモアを交えて披露するものでした。

参加者からは「文学への情熱が伝わってきた」「読みたい本がたくさんあった」といった感想が聞かれ、今回の開催が改めて読書への興味や関心を高めるきっかけになったのではないかと思います。



「名誉館長おすすめの本」があります



1階閲覧室では、伊藤名誉館長が自ら選んだおすすめの本を紹介する「名誉館長おすすめの本」コーナーを常設しています。平成28年4月からスタートし、年に数回、新刊を中心に3冊ずつ、伊藤名誉館長が各冊に丁寧なコメントを付けて紹介しています。

宮崎にゆかりのある著者の本をはじめとして、読んでおきたい様々な名著があり、貸出中の本も多く人気の高いコーナーです。来館の際にはぜひチェックしてみてください。

中村 地平

宮崎県立図書館第23代館長を務めた中村地平（1908～1963年）は、作家でもありました。地平は井伏鱒二に師事し、太宰治、小山裕士とともに井伏門下の3羽ガラスと言われており、作品が三度、芥川賞候補になったこともあります。そんな地平の文学の魅力に迫るべく、読書会と講演会を行いました。講師は宮崎大学名誉教授の岡林稔先生です。

読書会 「初めて読む中村地平作品」

10月28日、中村地平作品に興味のある方、初めて読むという方を対象に、読書会を開催しました。講師は地平の研究者でもある岡林 稔先生に務めていただき、「南方郵信」「霧の蕃社」の2作品を中心に、作品の舞台や時代背景から地平のメッセージを読み解いていきました。

「南方郵信」「霧の蕃社」の2作品は系統こそ異なるものの、南方の地を舞台に、そこに生きる人々の生活を中心に描写しています。岡林先生には、地平は都市文明への逆行や精神的な苦悩から、「地方」や「南方」への憧れを持ち、牧歌的な風景やおおらかな性格の登場人物がその象徴として作品に現れているという経緯を、他作品も引用しつつ解説していただき、地平作品を読む上で重要な視点を得ることができました。

読書会という形式上、少人数でのイベント開催ではありましたが、地平作品へ興味を持った方々が集まってくださり、積極的に意見感想を交わし、「地域の作家について多面的に見ることができた」「地平は想像以上に魅力的な作家だった」との声をいただきました。

今回の読書会で取り上げた「南方郵信」「霧の蕃社」は、当館でお借りいただくか、「青空文庫」のサイトでも読むことができますので、是非読んでみてください。



文化講座 「太宰治と中村地平 – 北方文学と南方文学 –」

第3回文化講座では、太宰治と東京大学の同級生であり、親友だったからこそ確執もあった中村地平に着目し講演をしていただきました。

中村地平と太宰治は、文豪・井伏鱒二の門下生として知り合い、会えばよく語り合う友人同士だったそうです。だからこそ、その後は考え方の違いから反発→絶交→和解→離反を繰り返した二人でしたが、その二人の作品内容を比較・対照することで、「南方文学」の小説家としての中村地平をクローズアップし、参加者の地平に対する理解をより深めていく講演内容でした。

今春、有志により中村地平に関するドキュメンタリー映画の公開を控えており、それとタイアップした関連イベントが本館でも計画されています。その一環で、当館に寄贈されている中村地平に関する資料を使った企画展を3月下旬に予定しています。



2024年 春 中村地平 のドキュメンタリー映画 が公開予定！

当館で試写会を行います。詳しくはp6の「県立図書館からのお知らせ」をチェック →

秋の読書週間企画展示 「宮崎県の図書館・図書室歩き」



今回の「秋の読書週間」展示では、情報提供にご協力いただいた30館9室の図書館・図書室を一挙にご紹介。図書館に対する5つの質問に答えていただき、図書館紹介ポスターを作成、展示しました。

「わたしたちの図書館を一言で表現すると…」という項目では、

- ・「海風薫る出会いと発見の場」（延岡市立図書館北浦分館）
- ・「つながるひろがるみんなの居場所」（新富町図書館）
- ・「本と人と笑顔をつなぐ。」（五ヶ瀬町教育委員会図書室）

など、それぞれの図書館の個性が表現されており、図書館の魅力が端的に伝わる良い展示になりました。

展示をご覧になった方からは「図書館愛と地域愛があふれていて幸せになりました。」「行ったことのない図書館がたくさんで、図書館巡りも楽しそうだなと思いました。」などの感想をいただきました。これを機に、ぜひ各図書館・図書室に足を運んでみてくださいね。



レポート

読み聞かせと音楽を楽しむ

第2回 緑陰コンサート



11月5日に第2回緑陰コンサートを実施しました。このコンサートは、県内で音楽活動をしている団体を招いて県立図書館屋外の緑陰のある広場で演奏をしていただき、来場者の方に素敵な時間をお届けするイベントです。

今回の緑陰コンサートでは、宮崎大学管弦楽団から12名の団員の方が来てくださり、バイオリンやコントラバス等の弦楽器やクラリネットを使って、ポップスからクラシックまで様々な楽曲を演奏していただきました。

第1部では、ディズニーやジブリ作品の曲、童謡など、特に小さいお子様に馴染みの深い曲を演奏していただきました。楽曲の間奏では、演奏に使用している楽器の紹介や、それにちなんだ楽器クイズなどもあり、会場は大いに盛り上がりました。

第2部では、県立図書館の司書による読み聞かせを行いました。県立図書館でも人気の高い「どうぞのいす」のほか3冊の絵本を、手遊び歌を交えながら読み聞かせをしました。絵本をじっと見つめ物語の世界にどっぷりと浸る子、「わあ！」など声を出したり手をたたいたりしながら物語を楽しむ子、ご家族の膝の上で気持ちよさそうにお話を聞いている子など、絵本を様々な子どもたちの様子が見られました。

第3部では、歌手・中島みゆきさんの「糸」やパッハルベル作曲「カノン」など、知名度の高い曲を演奏していただき、第1部の演奏とはまた違った良さがありました。

「糸」の演奏が始まると、会場が一斉に静まり、参加者は目を閉じて演奏に聴き入っていました。時折、涙ぐまれる方の姿もあり、参加者それぞれが自分にとって「大切な人」を思い浮かべながら演奏を聴いておられたようです。

開催日が近づくにつれ天候が不安定になっていき、屋外での開催が心配されましたが、心地よい風と木漏れ日に包まれながら、緑陰の中で心ゆくまで演奏や絵本を楽しんでいただきました。「最高!」「癒やされた」と、参加者からは嬉しいお声を多くいただき、大盛況で無事に終わることができました。ご来場いただき、誠にありがとうございました。





地域の魅力を世界に発信

ウィキペディアタウン in 椎葉村 を開催しました

ウィキペディアタウンとは？

地域の文化財や名所などをインターネットのフリー百科事典『ウィキペディア』に載せて人々と地域情報をつなげ、魅力を共有したり活性化に取り組んだりしている町のこと。それから転じて、文化財や名所などを訪れて地域の歴史や文化を調べ、ウィキペディアの記事に編集するイベント活動も「ウィキペディアタウン」と呼ばれるようになっていきます。



県立図書館では、民俗学発祥の地といわれる椎葉村を舞台に「ウィキペディアタウン in 椎葉村」を8月27日(日)に開催しました。

講師として、全国各地で豊富な経験を持つ是住久美子氏(田原市図書館長)とMiya.m氏(ベテランウィキペディアン)をお招きし、初心者から経験者まで参加者のみなさんを丁寧にサポートしていただきました。

当日は、まず柳田國男ゆかりの地と椎葉民俗芸能博物館を巡り、村と民俗学とのつながりや伝承文化を見た後、メイン会場の椎葉村交流拠点施設Katerie(椎葉村図書館「ぶん文Bun」)で、3班に分かれて椎葉村の文化をテーマとした記事づくりのワークショップを実施。短い作業時間ではありましたが、準備していた文献資料も積極的に活用されて各班とも充実した記事がまとまり、会場からウィキペディアを通じて世界に発信されました。

参加者からは、現地探訪と学びの活動が一度にできる喜びや、自らの成果が外へ発信されることへの達成感、参加者同士の交流の楽しさなどの感想が聞かれました。

令和6年度は、延岡市に場所を移してウィキペディアタウンを開催する予定です。どうぞお楽しみに！



現地で取材



編集



日豊本線開通(小倉—吉松間)100周年記念 特別展『宮崎の鉄道—鉄道敷設の歴史』



2023年は、陸の孤島といわれた宮崎県に念願の鉄道が開通してからちょうど100周年。それを記念し、昨年9月23日(土)から10月29日(日)にかけて、特別展『宮崎の鉄道—鉄道敷設の歴史—』を開催しました。この展示会では、宮崎県内の鉄道敷設の歴史について、当時の県や県会の動向、日向鉄道期成同盟会の会長堤長発、第13代宮崎県知事有吉忠一を通して紹介しました。鉄道敷設に関する資料や書籍、列車の模型(Nゲージ)、鉄道関連のグッズなどを展示しました。

鉄道ファンをはじめ親子連れなど多くの来場者に来ていただきました。大盛況で無事に終えることができました。ご来場いただき、誠にありがとうございました。

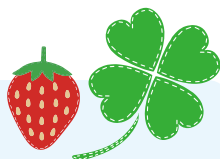


覗いてみよう！県立図書館

見て楽しい！触って楽しい！

布の絵本

布の絵本とは？



アップリケや刺繍など、取り外したり、変形させたりして遊ぶことのできる布製の絵本。文字が少なく、触って遊ぶことができるので、小さい子どもや障がいのある子どもに向けた本もあります。



児童図書室には布の絵本が36作品あります。

昨年の秋（令和5年11月28日）に寄贈された

最新作は、「みやざきマップ」。宮崎県内のご当地の情報がてんこ盛りです。その一つ一つが丁寧に作られています。見れば見るほどその緻密さに息を飲み、触れるのをためらうほどです。

寄贈して下さったのは、布の絵本「たんぼぼの部屋」という団体です。布の絵本「たんぼぼの部屋」は、1984（昭和59年）に発足しました。「出来ることを、出来るときに、無理をせず」をモットーに、布の絵本やおもちゃを作成し、貸出をされてきました。布の持つ優しさ、温かさ、柔らかさが年代を超えて幅広く伝わり、幼稚園や保育園、高齢者施設などで利用され喜ばれています。また、その活動や作品が高く評価され、2014（平成26年）には「緑綬褒章」を授与されました。39年にもわたり、素晴らしい活動を続けられた「たんぼぼの部屋」ですが、令和4年12月に惜しまれながら解散されました。しかし、現在も残った材料で作品作りをされながら、今まで作った作品の修繕を引き受けていただいています。布の絵本は私たちの心を穏やかにしてくれます。皆さんもぜひご覧ください。

読み方いろいろ

障がい者サービス



当館では、障がいのある方たちの読書をサポートするサービスをご提供しています。

図書館に来館することが困難な方にご自宅まで本を送る「障がい者郵送貸出サービス」や、視覚障がいがある方や高齢、病気、その他の障がいなどにより、本をそのままの状態で読むことが困難な方にデージー録音図書や再生機器の貸出を行っています。デージー録音図書には、1冊の本が1枚のCDに録音されており、耳で読書を楽しむことができます。

この他、当館には障がいのある方だけでなく、本を読むことが困難な全ての方を対象に設置した「読むサポートコーナー」や拡大読書器、大活字本などもあります。詳細については、当館のホームページでご案内しています。

要登録

障がい者郵送貸出サービス

重度の身体障がいまたは知的障がいにより、図書館への来館が困難な方へ郵送による貸出サービスを行っています。

要登録

視覚障がい等のある方へのサービス

視覚障がいがある方だけでなく、高齢や病気その他の障がいにより、本を読むのにお困りの方へDAISY録音図書や再生機器の貸出を行っています。

読むサポートコーナー

障がいのある方だけでなく、本を読むことが困難な全ての方を対象に拡大読書器、大活字本をご用意しています。

県立図書館からのお知らせ

郷土の作家「中村地平」

— 試写会と館歌披露 —

県立図書館の第23代館長を務めた中村地平（1908～1963年）の功績をたたえ、地平のドキュメンタリー映画の試写会と、地平が黒木清次と共同で作詞した県立図書館歌の県内奏者による独唱（ピアノ伴奏）披露を催します。

試写会

今春公開予定のドキュメンタリー映画「中村地平」の試写（約90分）と、脚本・監督を務めた延岡市出身のアーティスト小松孝英氏によるミニ講演（約30分）を予定しています。

館歌披露

全国的にも珍しい図書館歌を、声楽家の松本英樹氏と県警察音楽隊元楽長でトランペット奏者の井手茂貴氏及びピアニストの安部まり氏の3名により披露するほか、ライブコンサートを予定しています。



映画「中村地平」公式サイトより

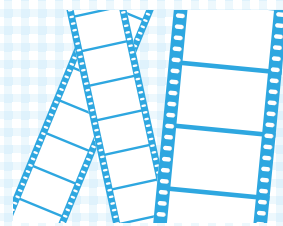
日時 2024年3月23日(土) 10:00～16:30

プログラム
10:00～12:00 試写会【午前】（2階視聴覚室）
13:00～14:00 館歌披露（2階研修ホール）
14:30～16:30 試写会【午後】（2階視聴覚室）

会場 宮崎県立図書館 2階視聴覚室（試写会会場）
2階研修ホール（館歌披露会場）

定員 各100名
※ 試写会は事前予約制、館歌披露は予約不要です。

参加
無料



お申込みの詳細はHPをご確認いただくか、お電話（0985-29-2911）でお問合せください。



県立図書館の資料の購入には、宝くじの収益金の一部が使われています。
宮崎県



宮崎県立図書館公式SNS



Facebook



Instagram

ご利用案内

開館時間 ■一般閲覧室：9:00～19:00
■児童図書室：9:00～17:00
休館日 ■毎週月曜日（祝日の場合翌日）
年末年始：12/29～1/4
特別整理期間：R6.9/18～9/20
R7.1/27～2/7

編集・発行

●宮崎県立図書館

所在地 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1
TEL ■0985-29-2911（総務・企画課）
FAX ■0985-29-2491（総務・企画課）
HPアドレス ■<https://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>



ホームページ